

「蕎麦のススめ～蕎麦は、人の心を繋ぐのか?～」

砂野 信

＜はじめに＞「蕎麦の花 手打ち 蘊蓄 食べ歩き 粋な仲間と 楽しくやろう」
言わずと知れた”江戸ソバリエ宣言”である。「手打ち・蘊蓄・食べ歩き」は、
一人でも出来るが、「粋な仲間と 楽しく」は一人では不可能だ。

「蕎麦は人を繋ぐ」という言葉をよく耳にするが、「本当に蕎麦は、人と人と
を繋いでくれるのだろうか?」「蕎麦が介在した”人の繋がり”には、他とは違う
ナニカ”特別なモノ”が存在するのだろうか?」

今回は、蕎麦を通じた仲間の在り方について考察し、蕎麦の持つ力を活用した
「蕎学」というシステムを提唱してみたい。

＜蕎麦は人を繋ぐ?＞

本当に蕎麦は人を繋ぐのか? 実際のところはどうかのだろうと、私の周辺
の蕎麦打ち経験者50名に、ヒヤリング及びアンケートを実施してみたところ、
「繋ぐと思う」(90%)「他の趣味よりも関係が深い気がする」(90%)
「繋がる人と繋がらない人がいる」(50%)…という回答を戴いた。

その理由として、「蕎麦打ちを教えて貰うと、”師弟に似た関係”になる」「食べ歩
き情報の共有や、SNSでのやりとりが濃密」「家族よりも蕎麦仲間と一緒にいる
時間の方が多い」等の意見があった。

中でも興味深かったのは「付き合う人を篩にかけている」(25%)という意見。
「蕎麦関係で知り合った全てと仲良くなりたいたいワケではなく、人選して付き合
う度合いを変えている」というのだ。また、「蕎麦関係の人は、アクの強い人が
多いので、なるべく敬遠している」という回答もあった。

そして“蕎麦打ち関係以外の人との繋がり”に関しては

「蕎麦が大量に出来るので、今まで付き合いの無かったマンションのご近所さ
んに頻繁に配っているうちに、新しい交流が出来た」「町内を歩いていると、
『あ!蕎麦の人』と声を掛けられるようになった」などの声も多くあり、
やはり大まかに、蕎麦には、人と人とを結びつける可能性が秘められているよ
うである。

この効力を基に、次のような展開を考えてみた。

<蕎麦打ちの工程にみる「おいしい仲間のくくり方」>

蕎麦打ちの中に「くくり」という工程がある。水回しを終え、粒が大きくなってきた時点で、さらに粉の粘りを引きだして、一つの塊に括り上げ、纏めるという工程だが、この”くくり・纏める”という作業は、蕎麦仲間のチーム作りにも不可欠だ。

「蕎麦の事典」新島繁編（柴田書店）に、

『木鉢でそばを練る手順は前段階の「水まわし」と後段の「くくり」に分けられる。水まわしは粉と水とをまんべんなく混ぜ合わせることで、粉はおから状となっていく。次にくくりに入るが、まず手のひらで押して粉と水の粒子をよくなじませる。水がしみ込み粘りが出てきたところで、一つの塊（玉）に練り上げる。練りあがった玉は表面にひび割れ一つなく、つるりとしたツヤが出る。この状態を「面が出た」、あるいは、「面出し」という。』とあるが……

「蕎麦仲間」に於いても、一人一人の個性や才能が、蕎麦という媒介を通して混じり合い結びつき、やがて一つの大きな塊にくくられて行き、そこから更に、より親密な関係へと練り上げ、その信頼関係も、ひび割れなく纏まり、やがて、ツヤのある「面」ともいえる「輝き」を社会に与えるようになる事が望ましい。

<「蕎学・そば育」の提案>

先ほどは、蕎麦打ちの工程のみを例にとったが、蕎麦には、「ソバの種蒔き」～「収穫・脱穀」～「石臼製粉」～「手打ち製麺」～「茹で」て「振る舞う」までという、多くの幅広い工程がある。そこには古来より先人が育んできた智慧や工夫・愛情がふんだんに溢れている。これらを体感することによって、我々が学べるものは計り知れない。

そこで、蕎麦から受ける恩恵を「蕎学」と名付け、活動したく思っている。

その活動は、蕎麦打ち愛好家のオジサマだけにとどまらず、広く、幼児から女子高生、後期高齢者の方々、会社帰りのOLさん、身体の不自由な方も、誰もが気軽に学べる環境創り「そば育」も構築中。例えば、幼児達が学んだ事を、次は幼児側から高齢者に教える…子どもとお年寄りのお互いが、共に教え教えられながら学んで行くのだ。

私は、これらの活動を「江戸ソバリエ」として行い、蕎麦文化の保全、継承、発展のために活躍してゆく所存である。

<社会課題の解決へと繋がる？>

また、これらの活動は、「シニア世代の雇用問題」・「高齢者地方移住への勧誘」・「都会での孤立化解消」・「世代間交流の再構築」などという現代社会が抱える課題の解決にも結びついており、以下に、蕎麦・そば育をソーシャルビジネスとして活用するビジネスモデル案を提示する。

- 「週替わり蕎麦屋さん・蕎麦庵」古民家を自分たちの手でリフォームし、蕎麦屋として事業展開。週替わりのバトンタッチ式で運営する。
(候補物件有り・助成金申請中)
- 「蕎麦ソーシャルワーカー養成研修」で蕎麦指導者の普及に努める。
- 「触れ合いふるまい蕎麦」敬老施設や養護学校で振る舞いそばを行う。
- 蕎麦を通しての情操教育「そば育」講師チームで、施設や学校を訪ねる。
- 「蕎麦ツアー・全国蕎麦屋さん巡り」のコーディネート
- 体験型農園「都会のド真ん中でソバを育てる？」

現在、これらを企業や公益事業体と連携して展開して行こうとしている。

<おわりに>

よく「死ぬ前に思うこと」とか「人生で後悔してること」というアンケート結果が話題になるが、その答えの8割以上が…

- 「もっと自分を大切にすればよかった」とか
- 「もっと一瞬一秒を大事に過ごせばよかった」
- 「もっと仲間を作っておけばよかった」というものだという…

実は、どれも、今すぐに始められるものである。

人生の「しめくくりかた」も蕎麦に学び、粋な仲間と楽しくやる。蕎麦で繋がりながら、大きく広げて（のして）、切っても切れない関係をしっかりと築いていきたいと思う今日この頃である。